

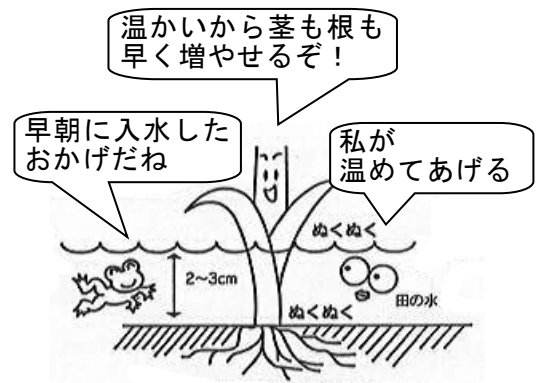
# 稲作情報 第3号

黒部市  
黒部市農業技術会議

品質の良い米を安定生産するためには、初期生育の確保による『穂数型稲』と適切な中干しによる『根づくり』が重要となります。  
生育期に応じた水管理の実践により、気象変動に強い稲を目指しましょう。

## 1. 水管理

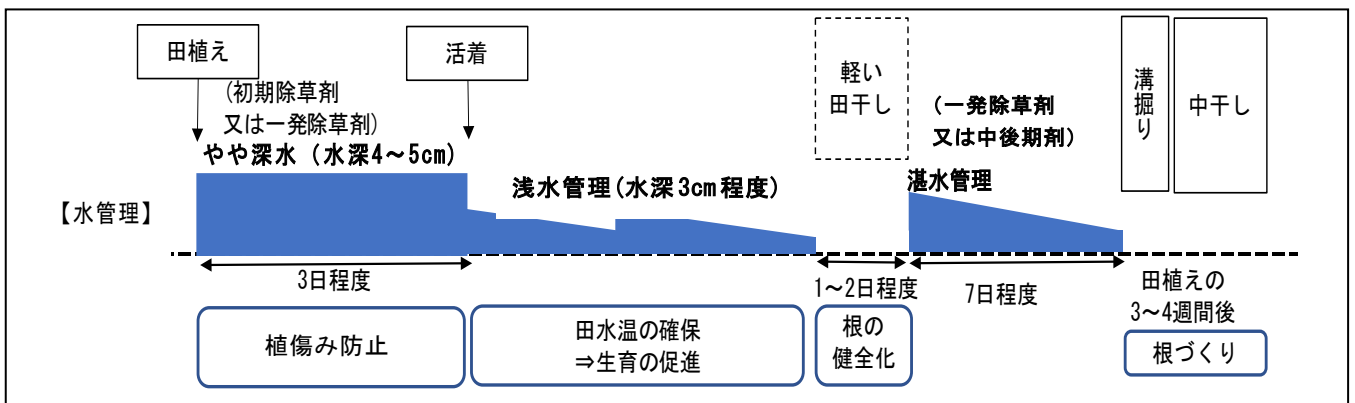
- 田植後3日程度は、植傷みを防ぎ、湛水による保温効果を高めるため、**やや深水（水深4～5cm）**としましょう。
- 活着後（田植後3日程度）は、**浅水管理（水深3cm程度）**を徹底し、初期生育を促進しましょう。
- 入水は、朝または夕方に行い、日中は止め水にして水温を高め、**分けつ（新しい茎）の発生**を促しましょう。
- 田のワキや藻が発生した場合は、**水の入れ替えや軽い田干し**を行い、根に酸素を与えましょう。
- 軽い田干しは、風の穏やかな暖かい日に行いましょう（以下にも留意）。
  - ・ 一発除草剤を散布済みの場合 → 軽い田干しは散布後7日以降に
  - ・ 中期除草剤を散布予定の場合 → 軽い田干しは散布前に



＜初期生育の良い稲＞  
（イメージ）

- × チラ干しは、苗の傷みや雑草発生の促進が懸念されるため厳禁です。
- × 深水では、水温が上がりやすく、分けつの発生が少なめで軟弱徒長ぎみになります。

### 【水管理のイメージ：体系処理の場合】



農業用水路への転落事故に気を付けて

## 2. 溝掘り

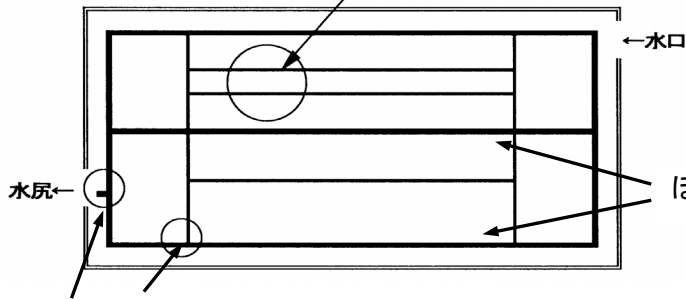
ほ場全体の入水・排水を考慮して設置しましょう

- 中干しの効果を高めるため、6月初旬までに溝掘りを行いましょ。
- 溝掘り前に軽い田干しを行い、土を落ち着かせた後に設置しましょ。

〔設置の目安は『額縁』＋『5m程度の間隔に1本』。  
“水の溜まっているところ”や“乾きにくいところ”は重点的に。〕

- 掘った溝は、確実に水尻（排水口）と連結しましょ。

いつも水が溜まっている所（停滞水）や乾きにくいところを重点的に！



掘った溝は、排水溝にしっかりつなぐ！

適期に散布し、  
湛水状態を保つ

## 3. 一発除草剤・中後期剤使用のポイント

	薬剤名	処理時期	使用量	使用上の注意点
一発除草剤	プライオリティ 1キロ粒剤	田植時～ ノビエ 3.5 葉期まで (田植後 30 日まで)	1kg/10a	・一発処理剤であり、雑草発生前から生育初期に有効なので、時期を逸しないように散布する。
	※デオーレ 1キロ粒剤	田植時～ ノビエ 3.0 葉期まで (田植後 30 日まで)	1kg/10a	
	※デオーレ ジャンボ	田植後 1 日～ ノビエ 3.0 葉期まで (田植後 30 日まで)	400g/10a (10 パック /10a)	・水深6cm以上の深水状態で水田に均等に投げ入れる。 ・藻が多発しているほ場では使用しない。
中後期剤	ブイゴール SM 1キロ粒剤	田植後 15 日～ ノビエ 3.5 葉期まで (収穫 60 日前まで)	1kg/10a	・散布時～処理後に高温が予測される場合や、低温(平均気温が 15～16℃以下)時には使用を避ける。
	※レプラスギア 1キロ粒剤	田植後 14 日～ ノビエ 4.0 葉期まで (収穫 60 日前まで)	1kg/10a	・薬害回避のため、砂質土壌及び減水深 2cm/日以上の水田、極端な浅植えの水田での使用は避ける。
	※レプラスギア ジャンボ	田植後 14 日～ ノビエ 4.0 葉期まで (収穫 60 日前まで)	400g/10a (10 パック /10a)	・水深6cm以上の深水状態で水田に均等に投げ入れる。 ・藻が多発しているほ場では使用しない。

※印の除草剤は、「やまだわら」には使用しないでください（薬害が発生する可能性有り）。

- 散布前に、軽い田干しや水の入れ替え（水温が高い時は必須）を行いましょ。
- 『大雨』や『30℃以上の高温』が予想される場合は、除草剤を散布しないでください。
- 散布後 7 日間は「止め水」を保ち、落水やかけ流しはやめましょ。

農薬を散布する際は、隣接ほ場や住宅地周辺などへの飛散防止に十分配慮しましょ。

<富山県農薬危害防止運動 実施中（4/1～9/30）>